

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 044	提案機関名 農業技術センター畜産技術所普及指導課
要望問題名 自給飼料の生産性向上のための新たな作型等の開発	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 県内では自給飼料の生産に努力をする酪農家は多い。単位面積当たり収量を上げるために、畜産技術所でも飼料用トウモロコシの二期作を研究し、生産現場にも広がりつつある。しかし、耕作放棄地は多いものの、大型機械を使って効率的に自給飼料生産ができるほ場には限りがある。 そこで、優良なほ場でさらに単位面積当たり収量を上げるための、新たな作型、新たな品種導入のための研究を願いたい。 また、良質サイレージの調製方法、開封後のサイレージの変敗予防方法については、引き続き研究願いたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター畜産技術所	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)	関東甲信越地域におけるコントラクター向け省力的飼料生産技術の開発(平成25～27年度) 新開発トウモロコシ不耕起播種機の性能実証試験(平成25～26年度) 高水分原料のサイレージ調製技術の開発(平成23～26年度)		
対応の内容等	トウモロコシ二期作は、土地生産性に優れて自給飼料増産に有効な栽培体系ですが、適地判定の結果では県内全ての地域で可能な栽培体系ではありません。そこで、平成25年度からトウモロコシ二期作が難しい地域での栽培体系として、ソルガム新品種を用いたトウモロコシ・ソルガム混播について検討しています。 また、現在登熟不足や予乾不良の原料草のサイレージ調製方法、市販添加剤等を利用した二次発酵抑制方法についても併せて試験を実施中です。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			